

“大阪商大サッカー部の姿勢と心構え”

上田 亮三郎

サッカーの上達には先ず人間性の充実が必要であり、地味で謙虚な態度で黙々と努力することが最良の方法であり、最短距離であることを再認識して貫きたい。又、同時に昭和28年の創部から現在の大阪商大サッカー部に至る間にすでにOBとして、社会にて活躍されている人達の現役時代、環境にも恵まれぬ状態で苦闘を続け、踏み石となってくれ、表面には浮かばれなかったOB諸氏の努力があった事を知ると同時に感謝の念を忘れないで欲しい。連勝する事で伝統が築かれて行く等と感違いしてはならない。立派な伝統の基盤になるものは人間関係にある。

学生々活の中で、サッカーの練習や団体生活を通じ、お互いに協力し助け合い他に迷惑を掛けず、秩序をわきまえ、自己をコントロールし得る人間性が養われる様なチームのムードが先輩から後輩に受け継がれて行く中に、真の意味での不動の伝統が生まれるのである。お互いに協力し助け合い、仲間のために働き、物事に動ぜず、黙々と努力し、礼儀作法と秩序をわきまえた上での行動力ある人間性、これが真のスポーツマンの姿であり、この人間性が無くして優秀な選手になれるわけがない。こう云った人格がサッカーの上達と共に養われてこそチームの向上もあり不動の基盤が築かれるのである。そこに運動部生活の意義があり、その人間性と精神が必ず社会に出て役立つ様になると確信している。吾々の歩む道は唯一つ、簡単な事に対し、黙々と努力を積み重ねて行く事であり、決して難かしい事や派手な事をする事ではない。